

公開シンポジウム

「前進する北の林業—先進機械による伐採・造林—貫システム—」開催報告

日時：平成 28 年 2 月 16 日（火） 10 時～17 時

場所：札幌コンベンションセンター 中ホール（札幌市白石区）

内容：

多くの人工林が主伐期を迎え、伐採後の確実な再造林が全国的にも急務となっています。そのために各地で低コスト化を目指した研究や取組が行われていますが、造林樹種や自然環境が特異な北海道では、それに見合った技術が必要です。

約 250 名が参加したこのシンポジウムでは、農水省の研究費で北海道支所と下川町が共同開発した、林内走行型機械を用いた短幹集材（CTL）、クラッシャー地拵え（じごしらえ）、コンテナ苗の活用、低密度植栽等を組み合わせた伐採・造林—貫システムについて、その具体的技術、コスト評価、および環境影響の三つの点から研究担当者が発表し、機械をフルに活用することが生産性やコストの点から有利であることが示されました。

また機械化林業の先進地であるフィンランドとスウェーデンの研究者により、伐採作業や苗木生産・造林作業の機械化に関する興味深い講演が行われました。さらに、下川町や林野庁といった行政サイドからも、低コスト林業や伐採造林—貫作業の必要性や期待について講演して頂きました。

発表者全員と司会者によるパネルディスカッションにおいては、技術を適用する上での制度的な問題や地域振興に対する林業の役割を含め広い角度から議論が行われました。

